

幼保連携型認定こども園 学校法人恵光学園 ポケット幼稚園
令和4年度 自己評価結果報告書

1. 園の教育目標

- ・思いやる子に育てる。
- ・能く考える子に育てる。
- ・能く行動する子に育てる。
- ・素直な子に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

幼保連携型認定こども園として3年目を迎えた。1号認定子どもは全園児の25パーセントを下回り、3歳未満児・長時間利用の子どもが増えている現状が職員の負担増になっている。しかし、職員数の増加により融通が利くようになり、働き方の改革が少しずつ実現できてきた。これからは、多人数の職員を適切に配置することが求められる。その中でいかに教育・保育の質を維持していくか労務関係の改善をしながら活動内容や行事の在り方を考える。

◎職員の数が新型コロナウイルス感染症に本人や家族が感染し、長期に休むことがあったが、職員一人一人が職務をよく全うして一定の保育の質の維持はできた。今年度も職員の負担を減らし保育に充てられる時間の確保をするために保育支援員を雇用し、昨年度よりも時間数を多くした。処遇改善の制度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを使い職員の給与面における年収が多少改善されているが十分とはいえない。

・労務関係のタイムカードによる就労時間管理に慣れ、残業時間を極力少なくして家庭生活や自分時間を持てるように配慮した。また、休憩時間を30分～45分程度のまとまった時間とすることで、リフレッシュして保育に取り組むことを促進した。

《一定の成果が上がっているが、これからも一体感のある職場を目指さなければならない。》

◎新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を考慮した園生活の在り方・行事の在り方について考える。

《手指消毒・健康観察表の徹底・換気の配慮・最新の情報の提供

手指消毒は、肌荒れ等を軽減させるため最低限とし、水の手洗いですませるようにした。

マスクは、感染状況により外すことができるように配慮した。

・保育参観の中止

・年長の宿泊保育の代わりに「夜まで保育」を実施した。宿泊をしないので「一人で泊まれた」という自信にはつながらないが普段は園の中では生活しない時間を過ごすことで多少の成果はあったと思われる。

・観光バスを使った親子旅行は実施せず、現地集合の親子園外保育を年長「スカイランドパーク」・年中「群馬フラワーパーク」はな組「るなばあく」で行った。

保護者の方の反応は概ね好評だった。

・音楽リズム発表会は、会場では歌唱せず園で録画したものを会場で上映した。

《今のところは、幸運にも園内でクラスターが出ることはなかった。引き続き、子どもへの教育・保育の向上に努めながら、これからも気を緩めずにできるかぎりの対策が必要と考える。》

3. 具体的目標・計画

① 教育課程・指導について

- ・季節やその時期の環境・伝統的行事に配慮しながら保育を行う。

《実際に見る・聴く・触る等の体験を大切に。季節を感じたものを壁面製作等の製作物で表現した。端午の節句（こいのぼり製作）・七夕・仏教的行事を通して心の涵養に努めた。また、それぞれの行事の歌もまた成果をあげることとなった。》

- ・食育については、野菜等の栽培を増やした。

《栽培植物：サツマイモ・稲・キュウリ・ミニトマト・インゲン・サヤエンドウ 栽培植物は、生または調理して園児が食した。園庭で栽培された野菜ということからか、食べられなかった野菜を食べられるようになった事例が散見された。身近に野菜の成長を観察できることが子ども達の中に培われていることを実感した。これからも、野菜の栽培は子ども達の興味・関心持つ機会に富みさらなる試みを続けていくことが必要。》

- ・園と園児とその保護者の信頼関係構築に心掛ける。

《連絡帳やおたよりあるいは送迎時に保護者との信頼関係を築くことを目指しているが十分とはいかない。》

- ・月毎に目標を定め、その時期ならではの留意点を明確にして保育を行うよう心がける。

《月案は学年主任が作成する。週2回（月・木）の学年主任会議をしているが、学年ごとの連携を十分に取れない状況なのでさらに改善していくことが必要。》

- ・年長児には小学校への接続を考慮する。

《今年度もまた、小学校との接続の関する計画は立てたが、新型コロナウイルス感染症の影響で変更せざるを得ないことがほとんどなっているので、それを補完する活動を考えなければならない。》

- ・就学サポートシートの活用を積極的に促す。

《すすんで利用とする保護者の問い合わせがあった。これからもスムーズな小学校への進学につなげる手助けをしていくことが必要。》

② 保健管理について

- ・看護師（パート・6時間×週4日）を採用した。これからはさらに充実させ、保護者が安心するように、毎日1人体制を整えたい。

- ・幼児に対する日常の健康観察

登園した際に視診を行う。

具合の悪そうな場合は検温及び、注意深く様子を観察し必要に応じて保護者に連絡をとるように心がけている。

2歳児は午前のおやつと昼寝後に検温。0.1歳児は登園時と昼食後・昼寝後。

毎日、登園時に健康観察表（朝の体温と健康状態等記入）を必ず提出してもらう。

- ・環境検査の実施（採光・水道水・換気等を薬剤師に依頼）
- ・感染症対策（机・椅子・玩具・戸等の除菌）玩具除菌には、専用器具を購入した。
- ・手指消毒液と除菌用薬剤・使い捨てビニール手袋・嘔吐物処理キット・子ども用マスク等常備。
- ・9月に職員健康診断実施。
- ・年2回の園児健康診断、年1回の歯科検診を実施。

③ 安全管理について

- ・園庭遊具の安全点検並びに修繕等 《毎月視認と触診で実施》
- ・防犯カメラ・110番通報装置の点検整備 《業者が年2回実施・直近では12月実施》
- ・毎月、火災総合訓練（避難・通報・消火）と年2回の地震避難訓練実施
- ・災害時の引き渡し訓練は検討中。

④ 特別支援教育について

学年を中心に支援を要する子どもへの対応について協議をし、園全体で協力体制を築くことで、子どもの成長発達の援助を行う。

特に配慮を要する園児には担当保育教諭を配置した。

《関係する研修の受講や専門の機関からの指導を得ることでさらなる成果を上げることが必要・前橋保健センターから専門の方に来ていただいた》

⑤ 組織運営について

職員への就業規則の周知（常時職員室に配備）

職員への情報の取り扱い方針の周知（年度当初）

個人情報の取り扱い、守秘義務について周知した。

《時間の制約から十分にできていない部分があるので努力が必要》

⑥ 研修（資質向上の取り組み）について

新採研・保育士等キャリアアップ研修・一社）群馬県私立幼稚園・認定こども園協会主催各種研修への積極的参加

《できる限り研修を受けさせたいが、代替え職員を配置できないので十分とは言えない状況にある。ただし、WEB研修等の利用である程度は補えた。》

⑦ 情報提供について

・園のしおり（入園時）

・園だより（毎月）

・3種類のニュース（基本的に毎月）

ほけんニュース・食育に関するニュース・身の回りのものに興味を持つためのニュース

・全日私幼連PTAしんぶん（毎月）

・携帯メール連絡網（オクレンジャー）による情報提供

《感染症情報その他紙媒体よりもメールによる情報提供が適しているものをタイムリーに配信している。》

⑧ 保護者・住民との連携

・PTAとの連携による行事運営

《PTA役員の方のお蔭で大きな行事が実施できている。貴重な時間を割いて協力していただいているので、それ以上のものを経験してもらえるように努めているがどうだろうか、と思っている。》

・さつまいも栽培による地域連携事業実施

《子ども達にとって、職員・PTA役員・地域の方が手伝っていることで、世の中はみんなが繋がりを持って成り立っていることを感じられたら、と思う。》

・保護者による読み聞かせ会（ボランティア活動）については、遊戯室が工事となったため、今年度

は実施できなかった。

《園児は毎月楽しみにしている。保護者の方もやりがいをもてる活動なので。》

⑨ 子育て支援

・預かり保育と延長保育

《預かり保育は一日平均 1.5 人・延長保育は同 2 人程度の利用であるが役立っている》

・親子の集い ミニポケット

《例年前期は 5 回、後期は 10 月から毎月一回実施し、毎回 10 組程の親子参加者があった事業だが、遊戯室が工事のため 1 回しか実施できなかった。認定こども園としては、これから内容の充実を図り参加者を増やして子育ての支援に努める必要がある。》

・子育て相談

《子育て相談のためのスキルを磨き十分な成果をあげるように努めることが必要》

⑩ 教育環境整備

遊戯室・乳児棟を新築した。本格使用は令和 5 年度からとなる。

【全体を通しての自己評価】

・今年度も業務量に対して職員の数が足らなかったがチームワークよく保育ができた。とはいえ、保育内容の検討は十分とは言えない。特に「幼稚園と小学校の架け橋」を考慮して教育課程の見直しを図らなければならない。全ての子どもが「健康で幸福な状態。良好な状態。満足の行く状態。」となることを目指す必要がある。

・今年度は、送迎バスの置き去り事件や不適切な保育が大きく報道された。本園においても「他人事ではない」ということを肝に銘じて点検の方法を講じた。バスについては、補助金の案内が来てから置き去り防止の装置を付けることになる。また、不適切な保育については「人権擁護のためのセルフチェックリスト」で自分たちの保育についての確認を行った。

・保護者からの連絡帳からの日々の保育や各行事への感想が概ね肯定的な内容だったことからうかがえる。しかしながら、一日の業務を十分に行うだけの余裕がないことから職員の増員が必要。また、労務関係については、社会保険労務士の協力を得て勤務規程等を現行の制度に適合するものに変更した。

・多忙を極める中ではあるが、今後は新たな園舎を十分に活用し、教育・保育を行う学校法人が設置する幼保連携型認定こども園としての本分を見失わず、職員全員が一致団結して向上心を持って園児のために邁進するように心がけたい。

【評価委員からの意見】 令和 5 年 3 月 7 日開催評価委員会にて

(1) 先生のセルフチェックは改めて大事だと思った。

(2) 先生は本当に大変。コロナ禍で大変な中保育していただいて感謝。

(3) 園でトイレトレーニングをしてもらい感謝している。

先生がこまめに見ていただいている。

(4) 職員の数が増えて、目があり手が入って丁寧に指導している。看護師の配置が大きい。

(5) 親以上に子どものことを考えている。先生方の振り返りがよくできている。